14　「」　─中世の説話集

18年度　学習院大学

★　次の文章を読んで、後の問題に答えよ。

　洛陽に、にして世を渡るものありけり。妻、夫に言ひけるは、「かく貧しく心苦しき世間、堪へ忍び１つべくも覚えず。人のせ２ぬ事にもあらず、強盗、引つぎもして、我をも養ひへかし」と言ひければ、「人の貧しきは常の事なり。いかが左様のわざをばすべき」と言ふに、妻、みくねり、泣きなんどして、「Ａさらばをべ。アいかなる人をもたのみて過ぎむ」と言ひける時、さすがに志も　　Ｘ　　けるままに、の方へ行きてうかがひける程に、日暮れ方に、女房①の一人具したる、とほりけるを、Ｂ折節人も見えざりければ、走り寄りて打ち殺し、二人②が着物を剝ぎて帰りぬ。血付きたる小袖どもを、「これこそ、しかしかの事してａまうけたれ」とて、妻に取らせたりければ、「イさこそ言ひしかども、Ｃかはゆき事」とも言ふべきに、みまけて、世にうれしげなるなり。

　あまりに１ウトましく覚えければ、日ごろの情けも志も忘らＹれて、やがて指してり押し切りて、ある僧坊にて出家して高野へのぼり３ぬ。さて、一筋に２ゴセ菩提の勤め怠らず。なく殺し③しも、罪深く覚えて、かつは、かのゴセを３トムラひけり。

　ある時、同じやうなる入道、語らひ寄りて物語り④しければ、「御発心の　ｂゆかしくこそ。も申さむ。仰せ４られよ。これは都に住みり⑤しが、嘆く事ありて、住み慣れ⑥し都にとどまらず、ｃあくがれてこの山へのぼりて」と言ふ。

　「これも都の者にて侍るが、思ひのほかの縁にあひて、出家して侍るなり」と言ふ。「然るべき因縁にこそ参り会ひ侍るらめ。くはしく仰せられよ」と言へば、いとつつましげにはありながら、強ひて問ひければ、申しけるは、「語らひて侍りし者に勧め５られて、思ひのほかの事をなむして侍りし」と、ありのままに語りければ、「いつの頃にて侍りし。また、女人の小袖の色、年の程」なんど、こまごまと問ひけるを、ありのままに申しければ、この入道、手をはたと打ちて、「さては、ウ御辺はがにてこそおはすれ。エかの女は志深く侍りし者なり。それにｄ後れて、かく出家しては候ふなり。かかる縁なくば、いかでか仏道修行のかたき道に思ひ入るべき。Ｄるべき善知識にこそ。御辺より外のはあるべからず。共にかの菩提を助け、出離の道に思ひ入るべし」とて、同じく勤め行ひて、一人は既に臨終にて終り６にけり。看病なんども懇ろにしけるとなむ。ある人聞きて語りき。今一人は、当時も侍る７にや。

　人の世にある、嘆き愁へ、遅れ先立つ習ひ多けれども、オ人に発心する事や侍る。賢かりける心様なり。Ｅのには、の悲しみ絶えぬ習ひと知りながら、愛を捨てて道に入る人なきこそ愚かなれ。嘆きあらむ人、この跡を慕ひ、の世界を捨てて、早くの浄土を願ふべし。

（注）　洛陽＝京都。

くねり＝すねて。

内野＝平安京のかつては大内裏のあった所であるが、荒廃していたとされる地域。

笑みまけて＝相好を崩して笑うこと。

本取り＝昔の結髪法の一つで、髪を頭上に束ねたもの、またはその束ねている部分。ここでは後者。

善知識＝人々を仏の道へと誘い導く人。

菩提＝死後の冥福。

同行＝修行する仲間。

正念＝心から仏を信じ仏道の真理を深く求めて忘れないこと。信心。

会離＝会者定離の略で、会った者は必ず別れる運命にあることをいう。

衆苦充満の世界＝苦しみの満ちあふれるこの世。

快楽不退の浄土＝楽しみが尽きることがない浄土。

問１　二重傍線部１～３の片仮名を漢字に直し、それぞれ解答欄に記入せよ。

１（　　　　　）ましく　　２（　　　　　）　　３（　　　　　）ひ

問２　傍線部ア「いかなる人をもたのみて過ぎむ」の本文における意味としてもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　どのような人を頼りにしても生きていけることでしょう。

２　どのような人であっても頼りにして生きていくことにします。

３　どのような人であっても頼りにされて生きていきたいと思います。

４　どのような人を頼ってももう生きていくことができないでしょう。

問３　空欄Ｘには、形容詞「浅し」が打消しの助動詞を伴って入る。適切な形に活用させて、解答欄に記入せよ。

［　　　　　　　　　　　］

問４　傍線部イ「さこそ言ひしかども」の「さ」は何を指すか。本文の表現でもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　「堪へ忍びつべくも覚えず」　　２　「強盗、引つ剝ぎもして」

３　「我をも養ひ給へかし」　　　　４　「暇を給べ」

問５　傍線部ａ～ｄの本文における意味としてもっとも適切なものを１～４の中からそれぞれ一つ選べ。

ａ　まうけたれ

　１　お金に代えなさい　　２　お金けしなさい

　３　偶然得をしたのだ　　４　手に入れたのだ

ｂ　ゆかしくこそ

　１　知りたいものです　　　２　興趣があることです

　３　すばらしいものです　　４　われがあることでしょう

ｃ　あくがれ出て

　１　高野に憧れて京を出て　　２　ふらふらとさまよい出て

　３　何かを求めて出て　　　　４　発心の気持ちが出て

ｄ　後れて

　１　妻に先立たれて　　　２　情が劣っていて

　３　気付くのが遅くて　　４　発心する機会に遅れて

問６　二重傍線部Ｙの「れ」の文法的意味としてもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　尊敬　　２　可能　　３　受身　　４　自発

問７　傍線部ウ「御辺は某が善知識にてこそおはすれ」の本文における意味としてもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　あなたが妻を殺したことが機縁となって、あなたが私を仏の道に導いてくれたのだ。

２　あなたにお目にかかれたことが、本当の仏の道に入る覚悟を私に与えてくれたのだ。

３　あなたに殺された私の妻が導いたから、私もあなたも仏の道に入るということになったのだ。

４　あなたが殺した女が私の妻だったのだから、私があなたを仏の道に導いたということになるのだ。

問８　傍線部エ「かの女は志深く侍りし者なり」の本文における意味としてもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　その女は、私が愛情を深くかけていた者です。

２　その女は、私を仏道へと導く意志が深かった人です。

３　その女は、あなたへの愛情が深かった人です。

４　その女は、仏道への志が深かった人です。

◎問９　傍線部オ「人毎に発心する事や侍る」の本文における意味としてもっとも適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　人それぞれに発心する事情がきっと異なることだろう。

２　すべての人がみな発心するということがあるだろうか、いやない。

３　人それぞれに発心する理由は異なるのだろうか、いや本質は同じである。

４　すべての人はたとえ事情が異なっても必ず発心するということだろうか。

問10　『沙石集』と同じジャンルの作品を、次の１～５の中から一つ選べ。

１　毎月抄　　２　無名抄　　３　十訓抄

４　湖月抄　　５　愚管抄

【確認問題】

１　傍線部１～７の助動詞の意味として適当なものをそれぞれ次から選べ。（同じ記号を何度用いてもよい。）

ア　完了　　イ　強意　　ウ　打消

エ　受身　　オ　可能　　カ　自発

キ　尊敬　　ク　断定

１［　　　］　２［　　　］　３［　　　］

４［　　　］　５［　　　］　６［　　　］

７［　　　］

２　二重傍線部①「の」、②「が」について、同じ働きをしているものをそれぞれ次から選べ。

①「の」

　ア　照る月の流るる見れば…

　イ　人の国にかかる習ひあなり。

　ウ　色濃く咲きたる木の様体うつくしきが侍りしを、…

　エ　こと人々のもありけれど、さかしきもなかるべし。

②「が」

　ア　雀の子を犬君が逃がしつる。

　イ　二、三十人が中に、わづかに一人、二人なり。

　ウ　いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

　エ　この歌は、…柿本人麻呂がなり。

３　二重傍線部③～⑥の「し」の中で、一つだけ他とは違うものがある。その記号を答え、さらに文法的に説明せよ。

記号［　　　］

説明（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

４　波線部Ａ～Ｃの語句の本文中の意味として適当なものをそれぞれ次から選べ。

Ａ　さらば

　ア　さようなら

　イ　それならば

　ウ　だから

　エ　あなたが出て行くなら

Ｂ　折節

　ア　ちょうど　　イ　季節がら

　ウ　時間的に　　エ　不運にも

Ｃ　かはゆき

　ア　かわいらしい　　イ　残酷な

　ウ　面白い　　　　　エ　かわいそうな

【補充問題】

５　波線部Ｄ「然るべき善知識にこそ」について、入道がそのように言う理屈を彼の立場から述べた次の文の［　］に、それぞれ適当な語を入れて、文を完成させよ。

　「あなた（殺人を犯した僧）が私（入道）の愛していた［　１　］を殺したために、私は［　２　］する決心をしたのだから、私を［　３　］の道に導いた人はあなたということになる。」

１［　　　　　］　２［　　　　　］

３［　　　　　］

６　波線部Ｅ「生死の長夜」の意味として適当なものを次から選べ。

ア　臨終を迎えてなかなか明けない長い夜

イ　愛する人の死後に寂しく過ごす長い夜

ウ　なかなか明けない夜のような長い人生

エ　他人の死を何度も経験するような人生

【解答】

問１　１＝疎（ましく）　２＝後世　　３＝弔（ひ）

問２　２

問３　浅からざり

問４　２

問５　ａ＝４　ｂ＝１　ｃ＝２　ｄ＝１

問６　４

問７　１

問８　１

問９　４

問10 ３

【確認問題】

１　１＝イ　２＝ウ　３＝ア　４＝キ　５＝エ　６＝ア　７＝ク

２　①＝ウ　②＝イ

３　記号＝④

　　説明＝サ変動詞「す」の連用形（サ変動詞「物語りす」の連用形活用語尾）

４　Ａ＝イ　Ｂ＝ア　Ｃ＝エ

【補充問題】

５　１＝妻（女）　２＝出家（発心）　３＝仏（仏道修行）

６　ウ

【現代語訳】

　京の都に、貧しい状態で暮らしている者がいた。妻が、夫に言ったことには、「このように貧しくつらい暮らし向きでは、耐え忍ぶことができるようにも思われない。人がしないことでもない（ので）、強盗でも、追いはぎでもして、私をお養いくださいませ」と言ったので、「人が貧しいのは普通の事である。どうしてそのようなことができようか、できるはずがない」と言うと、妻は、恨みすねて、泣きなどして、「それならばお暇をください。どのような人であっても頼りにして生きていくことにしよう」と言った時、そうはいっても（夫は妻への）愛情も、薄くはなかったので、内野の方へ行って（様子を）窺っていたうちに、日暮れ時に、女房で女童を一人連れている女房が、通りかかったのを、ちょうど人目もなかったので、走り寄って（二人を）殺し、二人の着物を剝いで帰った。血の付いている小袖類を、「これは、これこれの事をして手に入れたのだ」と言って、妻に渡したところ、「そのように言ったけれども、かわいそうな事（をしたものだ）」とでも言うのが当然なのに、相好を崩して笑い、とてもうれしそうな顔つきである。

　（夫は）あまりにも厭わしく思われたので、日ごろの情けも愛情も自然と忘れて、そのまま家を出てを切り捨て、ある僧坊で出家し高野山へ登った。そして、一心に後世菩提の勤めを怠らない（で修行に励んだ）。訳もなく人殺しをしたことも、罪深く思われて、一方では、あの（亡くなった女房たちの）後世を弔っていた。

　ある時、同じような入道が、言葉をかけ寄ってきて話をしたところ、「（あなたの）御出家の機縁が知りたい（ものです）。私も申し上げよう。（あなたも）おっしゃってください。私は都に住んでおりましたが、嘆き悲しむ事があって、住み慣れた都に留まらず、ふらふらとさまよい出てこの山へ登って（修行しているのです）」と言う。

　（人殺しの僧は）「私も都の者ですが、思いがけない縁にあって、出家しているのです」と言う。（入道は）「相応の因縁によって（私はここへ）参り、（あなたと）出会っているのでしょう。詳しくおっしゃってください」と言うので、（僧は）たいへん言いにくそうではあるけれど、（入道が）強いて尋ねたので、申したことには、「睦まじくしていました妻にされて、思いがけない事をしました」と、ありのままに語ったところ、「（それは）いつごろでしたか。また、女性の小袖の色は、年のころは」などと、（入道は）細々と尋ねたので、ありのままに申したところ、この入道は、手をはたと打って、「それでは、あなたは私の善知識（＝仏の道へと誘い導く人）でいらっしゃる。その女は（私が）愛情を深くかけていた者です。その妻に先立たれて、このように出家しているのです。このような縁がなかったならば、どうして仏道修行の困難な道に入る決心ができるだろうか、いやできなかったはずだ。（あなたは）私が出会う宿命の善知識だ。あなた以外の、修行を共にする仲間がいるはずはない。共に妻の菩提を弔い、今から悟りの境地に入る道に深く思いをめぐらそう」と言って、同じように仏道修行をし、一人はすでに信心を保ったまま臨終を迎えて亡くなった。（残った一人は）看病なども献身的にしたということだ。ある人が（この話を）聞いて語った。もう一人は、今も健在でしょうか（と）。

　人で世にいる人は、嘆いたり愁えたり、遅れたり先立ったりする習いも多いが、すべての人は（たとえ事情が異なっても）必ず発心するということでしょうか。なんとも賢明な心の様である。なかなか明けない夜のような長い人生では、会者定離の悲しみは絶えることのないさだめであると知りながらも、愛を捨てて仏道に入る人がいないのは愚かである。嘆くことがあるような人は、彼らの足跡を慕い、苦しみの満ちあふれるこの世を捨てて、早く楽しみが尽きることがない浄土を願い求めなければならない。